

住吉例大祭 獅子頭の大切な役目



を判断するために、熱湯へ浸しても少しも漆がはげなかつたと言われるほどの塗りが施されているもの。ほかに、「龍虎の頭」と呼ばれる龍頭・虎頭は、佃島がかつて火災の危機に陥ったときに、龍虎を差し上げると風向きが変わり延焼を免れたという伝説がある。これらの、「住吉神社獅子頭宮出し」、「黒駒の獅子」、「龍虎の頭」、すべて中央区の無形・有形民俗文化財です。これらの獅子を保存して守っている人たちこそ、文化の継承者であり守り手ですね。

この記事は住吉講大若衆菊池さん（このシリーズ記事には必ずどこかに写っています。菊ちゃんを探せ！）の協力で月島3丁目保科さんが取材しています。

その菊池さんの祭りを二倍楽しめるトリビア知識獅子頭。どちらが雌、雄でしよう。ヒント角と擬宝珠で分かる。御仮屋では獅子頭の耳が取り替えられる。

宮神輿の邪気を払う獅子頭

宮神輿が渡御する前日、宮神輿の行幸路の邪気を払うため、獅子頭が巡行します。獅子頭が住吉神社で祈禱を受け終わつた後、合図とともに、それはもう大変な勢いで若衆が境内へと流れ込み、必死の形相で獅子頭の鼻

づらを掴みます。この獅子頭の鼻づらをつかむと縁起が良いとされていて、資料によると老人が獅子に触れれば健康長寿が約束されるという、とてもありがたいものなのです。佃の町中だけで子どもが担ぐ文政二年に作られた「黒駒の獅子」は、漆塗りの良しあし



「街のナニコレ」聖路加タワー 空中回廊Ⅲ

41号で聖路加タワーの空中回廊の記事を掲載しました。その続編になりま。聖路加タワーにお勤めの読者Nさんからの情報です。フロアに入るとちょっと面白いことがありま。 (階が…?) 思わずぶりなNさんの情報ですからこれは編集長自ら行ってみるしかありません。

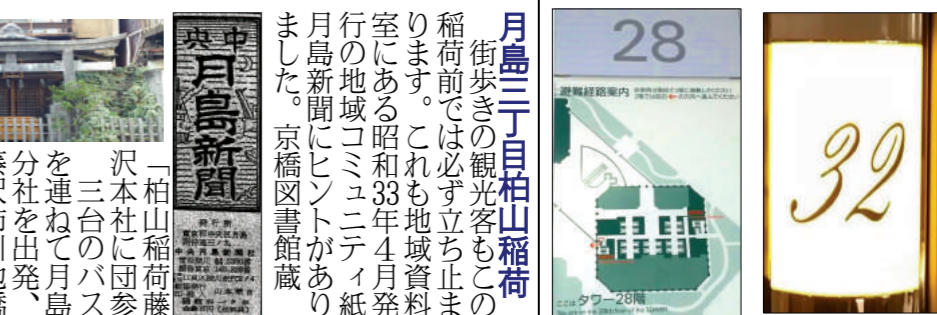
聖路加タワーは高い方で、低い方はレジデンスと呼んでいるんですね。32階から空中回廊でタワーなるほどホテル側32階から渡ってわかりました。

朝潮橋のたもとにある「秋迎堂? 太子堂?」

名前も書いていませんから正式な名前も、わかりません。謎解きは京橋図書館地域資料室の資料で見つけました。

「中央区の昔を語る 三」中央区教育委員会平成24年発行」から引用。

「朝潮橋の手前の建物はず」太子堂で都議会議員篠原虎之助さんが私費で、いろいろな方の菩提を弔うために建立された。篠原さんの家族も亡くなり今は堂守りもいなくなっていたようです。読者記者54歳月島っ子は小さい時にここでお菓子をもらったとの証言です。



「柏山稲荷藤沢本社に団参三台のバスを運んで月島分社を出発、藤沢市引地橋本社に参拝、宮司飯田守弘氏の祭典執行、井上講元の挨拶後々刻会」の記事が掲載されています。現在も藤沢市柏山公園内に稲荷が残っていますが、月島地域の人がみんな守ってきたお稲荷さんのようです。神社には表札があり「飯田」と？ シリーズ完結！

街角植物観察日記

佃丁目くさん取材



今月は石川島公園に咲いている花に注目してみました。

よく「星のような」と形容される、先の尖った六弁の花が、カーペットのように咲き揃っているのは、名前をハナニラといひます。色は白、青紫、薄ピンクがあります。



石川島公園では白と青紫が植えられています。ユリ科ハナニラ属で、食用のニラはユリ科ネギ属です。切ると、ニラと同じ臭いがしますが、食用にはなりません。洗面器いっぱい食べない限り害はありませんが、それでも毒性がありますので、試したりするのは止めましょう。

青と白の可憐な花は、なんと、オオイヌノフグリといひます。春から初夏にかけて、日当たりの良い草地に、群生します。ゴマノハグサ科クワカサソウ属で、摘むと花はポロっと落ちてしまいます。変な名前です。ね。

学生時代、花の形の何処が犬のフクリなのかと不思議に思ったものですが、最近、花の後の実の形がまさにその形なのだとわかりました。名前を付けた人は良く観察していると感心しました。

花が咲いていた場所を覚えておいて、結果を観察してみませんか？

ごあいさつ

みなさま お気づきとお気づきとは思いますが

タイトルが ちよつと 変わりました

ホクたちは かわらないよ

こいから ぶく 不願

2.0

作画 もとのたけし

「てんくうかぞく」改題

「てんくうかぞく」改題

この「てんくうかぞく」は(株)ハートベルカンパニーの提供で掲載しています。

中央区不動産物件情報を無料で差し上げます

中央区日本橋蛸殻町1-5-1

TEL.03-6661-2828 HPは hbc22.com



読者からの調査依頼 あの店は今?

先月号紹介の月島一丁目Sさんのタンプルタンのその後です。フェイスブックで店主の月足さんとつながりました。文は要約させていただきます。

タンプルタン代表の月足圭一郎と申します。私どもの店をご愛顧いただいていたのこ、閉店してなお、佐久間様や地域の方からこのようなお声をいただき、感謝の言葉もありません。とても嬉しく、そして店を続けられなかったことが無念でなりません。

タンプルタンとは?

タンプルタンとは、1993年に現在アイマークタワーの建つ場所に、父、月足邦博がケーキ職人としてのキャリア35年で開店しました。テイクアウトのみ小さな店でしたが、いつしか小さなテーブルを置き、その場で召し上がるお客様に、コーヒーや紅茶をお出ししておりました。移転後、ケーキ店、パン店、カフェの3店独立併設形態が完成し、これはパリの伝統的なスタイルです。商店街の毎月27日のイベントに合わせた各店の特売品として、当店で「丸ごとリンゴ」と「月島ロール」の販売を開始。青森産リンゴを独自の配合で数ヶ月シロップ漬けにし、アイモンドクリームを詰めパイで包み焼き上げにします。



2016年2月、父は76歳で亡くなり、翌年3月末、ミッドタワークラッド建設開始に伴い、残念ながら閉店となりました。竣工後、再開したい気持ちはない訳ではありません。しかし、再開店にはあまりに多くの課題があり、その気持ちも公言するには至りません。

以上で調査は終了

再開発が進む中、馴染みのお店が無くなっていくのは本当に寂しいもの思ひ出をここに残します。味が残せないのが悔しい!